

北のとびら

K i t a n o T o b i r a

特集
美術

インタビュー

芸術家 長谷川 仁

ピックアップ

シムカップ
アートキャンプ2012



94

平成24年11月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

道内で活躍する
親しみやすさを感じさせながらも
新しい作風の作家をご紹介します。

アートギャラリー / 第二十五回「切り紙造形」

佐藤隆之

満ちあふれる愛を、注ぐ。



2秒も見ると、モノのカタチを覚えてしまう。ある日ふと思いついて、図鑑で見た世界最長の「ギラファノコギリクワガタ」を紙で切ってみた。

即興で切り上げた作品は、初めから一枚紙の立体であった。

それからいろいろなモチーフを削り続けていたら、やがて周りが「すごい、それはアートだ」と言いはじめた。

美術家として活動しはじめた頃、「アートとは何ですか?」の素朴な問いに、私が敬愛するある作家が答えてくれた。

「作品は世の中という水に投じる石。起きる波紋は作品が与える影響力。意識してその石を投げ入れ続ける人が、アーティストだよ」と。以来、その波紋を意識している。

僕の作品のテーマは、「広い意味での愛」。作品には自身が投影される。僕自身がとても幸せであるという、満たされた気持ち強いほど、作品からあふれ、周囲を満たすものは濃く強い。

ずっと削り続けている天使の翼の作品群は、「大切な人を抱きしめる自分自身の腕」だ。愛し愛される幸せと喜びを高らかに謳(うた)いあげることが

お知らせ 佐藤隆之さんの作品を、財団事務局内の「アトスペース」で展示します。
予定 / 平成24年11月29日(木)~平成25年1月25日(金) 平日9:00~17:00 / 年末年始休館日(12月29日~1月3日) ※詳細は財団ホームページをご覧ください。



北海道文化財団では事業を通じ、
多様な文化を未来へと紡いでいます。
今回は、美術にかかわる事業を
中心に取り上げ、ご紹介します。

表紙

アート体感教室事業「芸術家 長谷川仁と遊ぼう」より

もくじ

02 アートギャラリー / 佐藤 隆之

04 インタビュー / 長谷川 仁

06 ピックアップ /
シムカップアートキャンプ2012

08 文化活動の基礎知識 / 森一生さん
多彩な表現で演劇を彩る舞台美術の世界

10 地域からのお便り /
北海道和太鼓サミット(室蘭市)

11 アートのチカラ /
ダンプレで結ぶ被災地との絆

12 この街この人 / 稚内市

14 ステージ /
北海道文化財団・特国民演劇協会九州広域市支会交流事業
劇団オル・アリ



緑と地球環境保護のため、古紙100%の
再生紙と植物油インクを使用しています。



1 全てを抱きしめる天使の翼 / 2012
H1830 × W920 × D260mm

2 天使の翼 / 2010
H260 × W220 × D70mm

3 天使の翼(飲びの謡) / 2011
H2000 × W1700 × D170mm

4 ニホンザリガニの親子 / 2011
H1070 × W1600 × D1200mm

5 無題(ギラファノコギリクワガタ) / 2012
H150 × W100 × D30mm

*1~4:恒展「飲びの謡」
〔六花ファイル作品展 / 六花亭福住店〕より



佐藤 隆之

Takayuki Sato

音威子府村出身。平成18
年から札幌を拠点にペー
パー・スクラプチュアとワイ
ヤー・アートをはじめ。翌年、
平成19年6月に苫小牧で開
催された第58回全国植樹
祭に招かれて行ったアートパ
フォーマンスを契機に、本格
的に活動を開始。作品展、パ
フォーマンス、ワークショップ、
養護学校などでの美術講師
として活動。

感じてもらえるだろうか。(佐藤)

長谷川 仁

芸術家

つなげるアートが、 視点を変える、 意識を変える

interview

自主事業・共催事業にかかわるアーティストを
ピックアップしてご紹介します。

岩見沢市で行われたアート体感教室

「芸術家 長谷川仁と遊ぼう!」で講師を務めた長谷川仁さんは、
自然や社会とつながる感覚の共有をテーマにさまざまな活動を行っています。
やさしいまなざしやぬくもりを感じさせる作品の原点についてお話を伺いました。



札幌にある第1号作品は
JRタワー壁面の募金箱

アーティストを目指したのは、大
学卒業後に桑沢デザイン研究所の

社会や自然とのつながりを
みんなで分かち合いたい

創作や今回のようなアートワーク
を続けていく中で、過去の作品を振

生活の延長線上にアート。
見慣れた風景を新鮮にする

一昨年、札幌市立清田小学校の子
どもたちと校庭の隅にレンガを積み



ワークショップでは、完成したパネルが置かれるJR岩見沢駅を視察。
どんな人が利用しているのかを観察し、創作イメージを高めていった。



10/13(土)・14(日)の2日間にわたって開催されたアート体感教室「芸術家 長谷川仁と遊ぼう!」では、小学校高学年16名がJR岩見沢駅舎に置く顔出しパネルを制作。子どもたちのやる気や集中力を切らせない長谷川さんのリードのもと、制作は予想以上の速さで進み、2日目には行き交う人を観察するための隠れ小屋を追加で作ることに。子どもたちは元気に「遊び」ながら、自分よりも大きな絵を描き上げ、秘密基地のようなお手製の小屋でわくわく過ごし、未来につながる経路の引き出しを増やしていきました。



子どもたちは動物や自然、岩見沢の特産品などをモチーフにオリジナルの顔出しパネルを1人1枚制作。



夜間部でプロダクトデザインを学んでいたときでした。発注者の要望に沿った作品を提案するデザインよりも、自分から発信していくアートに魅力を感じるようになり、学校の課題でも勝手にアートっぽいことをやったりしていました。

その後、彫刻家の関根伸夫さんが代表の環境美術研究所に採用され、アートの世界に二歩踏み出しました。といつても、ただのスタッフ。展示会のお手伝いなどをするかたわら、自分の作品をつくりたり、公募展に応募したりしていました。

転機は、札幌のJRタワーのコンペで特別賞を受賞したこと。野生動物のかたちをした窓に、コインが積み重なっていく巨大な壁型の募金箱が、デビュー作となりました。今も札幌スメラプレイスイースト6階の東モールにあります。その翌年、何かを加えてほしいという依頼を受け、同じエリアの壁やサインに紛れ込むように動物のオブジェを取り付けました。

り返りながら自分の核は何だろうと考えるようになりました。そこでたどり着いたのが、「社会と自然とのつながりをみんなで分かち合いたい」という気持ちでした。

例えば、コインがバチンコのように落ちていく。遊びの要素を加えた募金箱は、募金という社会的な行為を身近に感じさせます。動物のオブジェでは、普段意識しなかった生き物の存在に気付く楽しさが味わえます。

振りかえれば、10歳まで暮らした函館の記憶が影響しているのかもしれない。家は函館山のふもとで、山に登ってはエソシマリスやキタキツネに出会い、家の中でもいろいろな動物を飼っていました。それで自然や動物が好きになりました。子どものときに蓄積された楽しさや面白さは、大人になって何かを表現するときのベースになったと思います。

岩見沢でのワークショップでは、小学生の子どもたちが「顔出しパネル」をつくり、駅に置いたときの人々の反応を観察しました。狙いは「人を喜ばせること」の意識的な体験。自分たちが面白がることで手いっぱいだったようですが、それものちのち蓄積されていくでしょう。そして、今後、展示される自分の作品に、他者がどう反応するのかを体感してもらえれば、社会とつながるきっかけも生まれると思います。

Message for Hokkaido

北海道に届けたいメッセージ

北海道の魅力は、広大な大地が育んだおおらかで自由な気風でしょうか。作品をつくる時、材料はお店に買いに行くところから始まりますが、本当は裏山から採ってきた木とか、身近なものでつくりたいんです。北海道ならそれができますよね。やっていいことの許容範囲も広いように感じられます。ただ、その地のアートを育み、未来を創っていくのは、やはりその地に住む人たち。外から来て、外へ帰る僕らにできるのは、アートのタネを蒔くことです。ワークショップに参加した子どもたちが、北海道の風土の中でアートから生まれたものを育てて熟成させてくれたら、とてもうれしいです。

上げて、「タンポポタワー」なるものをつくりました。つべんの土にタンポポの綿毛が飛んでくるのを待つ構造なので、子どもたちは意識してタンポポを気にするようになりました。初めて訪れたとき、タンポポがともきれいに咲いていたのですが、学校の外から来た僕は感動できても、子どもたちにとっては当たり前の風景にすぎません。「その普通の風景が実はすごいことなんだよ」と気付くきっかけになればいいなと、このタンポポタワーを企画したので。

自然とつながり、社会とつながっていることを、みんなと一緒に感じ合えるアート。これからも、生活に根差したところで実践できる創作活動を続けていきたいと思っています。



※表紙写真と同じ「顔出しパネル」の展示風景

長谷川 仁 (はせがわ じん)

函館市生まれ。立命館大学、桑沢デザイン研究所を経て、アーティストとしての活動を開始。遊び心あふれるアイデアで新しい視点への気付きを促すアプローチに独自性を発揮し、パブリックアートの制作を中心に、ワークショップやイベントなど、アートに関連するさまざまなプロジェクトで活躍している。新千歳国際空港ロビーに設置されている巨大な木製オブジェ「エソバズル」をはじめ、道内各地でアートワークや子ども向けワークショップを手掛けるなど、北海道との縁は深い。





シムカップ アートキャンプ2012

平成24年8月10日[金]~9月10日[月] 会場/占冠村・JR占冠駅前公園ほか周辺施設

占冠が、アートの森になる。

「シムカップアートキャンプ」は、主催であるNPO法人占冠・村づくり観光協会からの「過疎の村に面白い空気呼び込みたい。アートで何かできないだろうか」という企画から、現代美術家の「よしだぎょうこ」さんが中心となり、国内外で活躍する美術・建築家、若手アーティストを交えて行われた試み。

今年度は平成23年度に続く第2回目となり、占冠村内で開催されました。今回の内容は、5つのステージに分かれて実施され、JR占冠駅前公園では、よしださんと建築家・織部晴崇氏とのコラボレーションによる巨木を用いたふすまロードプロジェクト「Arae J ayari」(領域-複層)を公開創作。この作品は、ふすまに映る自然の借景が巨木を祀るというインスタレーションで、今回は巨木の加工とふすまの素材づくりを行い、来年度の完成に向けた準備が行われました。

旧双珠別小学校の双民館では、公開レクチャーを実施。よしださんが進行役となり、織部晴崇氏、建築家・現代美術家の大岩オスカル幸男氏、詩人・美術評論家の建島哲氏、メディアアーティストの八谷和彦氏が、自らの創作活動や国内外の美術・建築事情を語り合うとともに、体験講座を実施。若手アーティストに向けたメッセージが発信されました。

このほか、彫刻家・大平龍一氏、日本画



全沢美術工芸大学の学生によるワークショップ。占冠の子どもたちが、枯れ葉のスタンプづくりを行った。



シムカップ アートキャンプ2012

【事業内容】

01 公開レクチャー

ベットがメールを運ぶ電子メールクライアント「ポストベット」を生んだメディアアーティスト・八谷和彦氏や建築家・現代美術家の大岩オスカル幸男氏らによる公開レクチャーを実施。



ふすまには、巨木や花をモチーフにした下絵が描かれた。

02 The show as シムカップアートキャンプ2012

星野リゾート・トマムにて、講師のアーティストや新進気鋭作家によるグループ展を実施。写真は「鈴」をモチーフにした、黄金に輝く大平龍一氏作の熊のオブジェ。



03 はたちの体温

占冠地域交流館で若手アーティストのグループ展を実施。



04 シムカップワークショップ

道の駅「自然体感しむかっぶ」などでワークショップを開催。地元の人々や観光客が集まり、アート体験を楽しんだ。



05 ふすまロードプロジェクト 「Area-Layer」(領域・複層)

現代美術家のよしだぎょうさんと、建築家の織部晴崇氏が2年計画でアート作品を共作。JR占冠駅前公園に通路を造作し、数枚のふすまを開けていくと駅前のシンボルとなっている巨木が出現するインスタレーションで、完成するのは来年度の予定。今年は巨木までの空間を測量したり、ふすまを制作したりといった準備が行われた。

家・高岡暁氏ほかによるグループ展、学生を中心としたグループ展、地域の子どもたちを対象としたワークショップが村内の会場で行われ、1カ月間にわたる、さまざまな試みが実践されました。

平成23年度にはじまった「シムカップアートキャンプ」は、村内を中心に地域の方々にも徐々に浸透しつつあり、来年度は、より広くアーティストや学生が集う内容を目指しています。占冠が、世界のアートの森になるムーブメントは動き始めています。

世界のアーティストが占冠を目指してほしい

現代美術家・金沢美術工芸大学准教授 よしだぎょうこ



「シムカップアートキャンプ」は、現代美術の第一線で活躍している方々を呼んで、占冠をアートの森にしようという思いで始めました。昨年は、私は雪の結晶をテーマにした作品をオープンスタジオで制作。大岩オスカルさんが占冠の自然と動物をイメージした巨大壁画を描くなど、さまざまなアートワークが行われました。若いアーティストたちと制作作業に没頭し、観光にも行かないのに、テンションは上がりっぱなし。水と風と緑が安心して、野菜もおいしい。都会の便利さはないけれど、占冠はアーティストにとって、とても魅力的な村。日本中、世界中のアーティストが占冠を目指してやって来る。そんなムーブメントにしていきたいですね。

まちの文化創造事業(キャリアプログラム)

地域の皆さんが参加する自主的・創造的な、美術、文芸、映像等の各種文化発表活動および普及活動(ワークショップ、レクチャーなど)を共催します。

- 一般市民が参加し、普及活動を行う展示会など。
- 公募キャストによる地域を題材とした映画制作など。



道の駅「自然体感しむかっぶ」ではライブドローイングも実施。

学校演劇の足跡からみた舞台づくり

だから
舞台は
面白い

第2回

多彩な表現で演劇を彩る 舞台美術の世界

高校演劇は、北海道の演劇において欠かせない柱の一つ。その作品には先人たちの苦労や熱い思いが詰まっており、深く知るほどに舞台づくりの面白さが見えてきます。第2回は、これまで上演された作品の舞台美術に注目し、北海道高校演劇の魅力や舞台創作の奥深さをご紹介します。

戯曲をどう読むかで創り出す舞台美術の表現

演劇における舞台美術。それは空間を構成するという点でディスプレイのように思われるかもしれませんが、実際はまったく違います。演劇では舞台を自分のアイデアやイメージよりも前に、戯曲(台本)によって舞台自体をデザインしていくことが大前提としてあります。戯曲をひもとき、実際に発せられる言葉、そして心の中の言葉にならない言葉や感情も含めた情景などを熟考して、空間、時間を舞台美術として表現していく。単なる装飾では、演劇的な「空間」や「時間」を支えきれないのです。演劇は、「口から発せられる言葉だけでなく、五感に訴える具体的言語に命をかわせ、すべてを動員して感覚を満足させること

ろから出発させなくてはいけない」と言われています。見るよりも聞ける、聞くよりも聞かせることが大事であり、その集大成が本番に結びつきます。そのためには舞台美術が大きな役割を果たしています。このことは高校演劇であつても同じです。舞台美術は台本をどう読み込むか、どう読んだかによって大きく異なります、これまでの北海道高校演劇でも、個性ある舞台美術が、さまざまな面白さや奥深さを創り出してきました。



平成2年釧路大会での北星女子高校の「山神」

文・写真協力 森 一生

昭和42年に札幌静修高等学校演劇部の顧問に就任。以降、長年にわたって高校演劇の指導に尽力し、同校を2度の全国優勝に導く。北海道高等学校文化連盟(高文連)演劇部の事務局長も務め、北海道高校演劇のレベルを全国トップクラスまで引き上げた功績は高く評価されている。

平成2年釧路大会での
札幌平岸高校の
「星降る夜は」



昭和51年の釧路湖陵高校の「海境りがさこえない」は、「創作劇集」にも掲載された生徒創作の秀作。舞台となる洋裁店が、本物と見間違ふほど丁寧に作り込まれている。





昭和55年旭川大会での
根室高校の「大きな木」



昭和52年
札幌大会での
札幌開成高校の
「大きな木」



昭和52年札幌大会で道代表に選ばれ、翌年の全国大会に出場した札幌開成高校と、昭和55年旭川大会で道代表に選ばれ、同じく翌年の全国大会に出場した根室高校。2校はそれぞれシルエル・シルヴァスタインの童話・絵本が原作の「大きな木」を公演しました。りんごの木の主人公・タローへの無償の愛がテーマのこの作品は、舞台上で何年もの時が流れていきます。両校は、どちらも脚立を用いてりんごの木を表現しながら、開成高校は「りんご」、根室高校は「フラフープ」をそれぞれ使い、その流れていく時や原作が持っている世界観を表現しました。

同じ戯曲をどう表現するか？ 2校にみる「大きな木」

昭和63年岩見沢大会での倶知安農楽高校の「餅は消えず」は、まるでスケッチしたような存在感の羊蹄山麓を表現。



舞台美術の基本は、リアリティがあり、存在感のある舞台であること。特に山や丘、海や木といった自然は北海道に住む私たちにとって、とても大事な舞台表現・要素となります。その中で、存在感のある北海道の山を紗幕しまくに描いた平成2年

舞台上に別空間を創り出す舞台美術のリアリティ

釧路大会での北星女子高校の「山神」、さらに舞台を手前と奥とで分けて、ギスギスとした人間模様と悠然とした大自然を対比させて表現した、同じ大会での札幌平岸高校の「星降る夜は」は、秀逸な舞台美術といえるでしょう。



昭和55年の札幌開成高校が上演したアイルランドの劇作家・シングの「海に乗りゆく人々」は、船のように見える全景で海をイメージさせつつ、舞台上に置かれた暖炉によって閉塞的な室内空間を表現。海によって外の世界から孤立した人々の孤独と怒り、絶望を巧みに舞台美術に反映している。



地域で行われているユニークな活動の紹介を、寄稿文でお届けします。

まちの
文化創造事業

北海道 和太鼓サミット

日本太鼓財団北海道連合会副会長／室蘭登別太鼓連盟会長 太田 義高



平成10年、室蘭市入江運動公園陸上競技場で白鳥大橋開通記念「千人太鼓」(実際には1,850名が参加)が開催され、和太鼓の合同演奏「山彦」が世界記録としてギネスブックに掲載された。室蘭市ではその後、ひびきの郷づくり推進事業として北海道最大の大太鼓「神」(打面4尺2寸)を購入。室蘭登別太鼓連盟が中心となり「大太鼓一本打ち全国大会」や光回線を利用した2千人規模の「北海道洞爺湖サミット歓迎和太鼓演奏会」を行うなど、和太鼓の普及・継承活動を行ってきた。

道太鼓連盟、国際太鼓道連盟の代表者をはじめ、「浅野太鼓文化研究所」の浅野昭利理事長、日本芸術文化振興会「国立演芸場」の茂木仁史プロデューサーの5名をパネリストとして招へい。「北海道における太鼓事情について」と題し、意見を交換した。さらに特別会場には、約200名の太鼓関係者や地元文化団体の方々が出席し、冒頭に放映した「千人太鼓」の映像には、「すごい！これが千人太鼓か」と驚きの声が上がっていた。短い時間ではあったが、北海道という大自然に囲まれた環境の中で和太鼓演奏ができることに感謝し、今後も組織間の情報交換を通じ、北海道の伝統文化を盛り上げていくことを出席者一同で誓った。

第2部では地元で活躍する「室蘭和太鼓會」をはじめ、道内で活躍する9団体が多彩な演奏を披露。その後は兵庫県を拠点に活動しているプロ「和太鼓松村組」の特別公演を行い、和太鼓にマリンバやケーナ、チャランゴといった民族楽器を取り入れた独特の素晴らしい演奏となった。また、大太鼓「神」を使った演奏では「ドーン」という音に瞬、会場がどよめき「神」の魅力を十二分に発揮した演奏を体験することができた。

「太鼓は叩くものではない、打つものだ！人の心を打つ太鼓打ちになれ！」これは「北海太鼓」の故・大場二刀氏の言葉だが、私たちが多くの道民の心を打てるよう、さらなる活動を進めていきたい。



第1部の「和太鼓シンポジウム」



民族楽器を取り入れた和太鼓松村組の演奏



第2部で披露された室蘭市の大太鼓「神(カムイ)」

アートのチカラ POWER OF ART

東日本大震災の被災地で行われている、文化芸術活動による支援事業にかかわる方から寄せられた“現在進行形”の声をお届けします。



岩手県
山田町

ダンプレで結ぶ 被災地との絆

～池田町支援被災地演奏公演～

池田高等学校 吹奏楽部
顧問

奥内 英樹

池田高等学校吹奏楽部が、ダンプレ(ダンス&ブレイの略)スタイルを取り入れた演奏活動をするようになったのはそれほど古いことではない。ダンプレは、指揮者・譜面台を置かず、踊りながら演奏することで、逆に常識的なスタイルにこだわらない活動ができることが何よりのメリット。他校のマネではないオリジナルなスタイルが評判を呼び、

今では十勝管内のさまざまなイベントに参加させていただいている。そんな私たちに白羽の矢が立てられた。岩手県山田町へ復興支援の演奏旅行をしないか、という誘いだ。山田町はワインを通じて池田町と交流があり、被災後の両町の災害支援協定締結式に招かれて演奏を行った。それが反響を呼び、ぜひ派遣したいとの声が集まったこと。願ってもないお招きだった。震災後、学校外での演奏では常に被災地への募金を呼びかけ、その額は増えていったが、それ以上に何かできないかを模索している最中だったからだ。

日程は9月28日～10月1日。バスとフェリーを使っての強行スケ



山田町での演奏風景

ジュールだ。山田高校吹奏楽部との交流会を含め全9公演。一回30分程度の短い演奏だが、小さな子どもからお年寄りまで幅広く楽しんでもらえるように選曲を考へ、リハーサルを重ねた。さらに現地入りを前に千歳市や苫小牧市のショッピングモールで公演し、募金を集めた。

演奏旅行出発の日、台風の接近により旅程が危ぶまれた。だが、現地入りした私たちに雨が降ることとはなかった。それは事前の悩みを吹き飛ばすような山田町の人々の笑顔のおかげかも知れない。仮設住宅や復興途上の商店街で演奏したが、集まった人々の手拍子、かけ声、笑いで逆に私たちが勇気づけ

られ、励まされた。現地に向かう道中や見学の時間に被災現場の現実を見て、その大きな爪痕を焼き付けていた私たちには信じがたい明るさだ。でも忘れてはならない。その明るさは大切な人との別れや辛く苦しい思いを経ていることを。そしてそれを和らげるものは、人との間に結ばれる手を結び合うような絆。以外にはないことを。演奏終了後、バスに乗った私たちにいつまでも振られた手。約束はできないけれど、またこの笑顔に再会したいと強く思った。





この街 この人

第21回

人から人へ。一人から大勢へ。アートの可能性は、人を通して無限に広がっていきます。地域の文化を支えているさまざまな方たちを通して、北海道各地の文化を紹介します。

稚内市

<http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp>

宗谷総合振興局

面積…760.89K㎡

総人口…37,708人(2012年10月末現在)

人口密度…50人/K㎡

隣接自治体…利尻町、利尻富士町、

礼文町、豊富町、猿払村

市の木…サクラ、ナナカマド

市の花…ハマナス



**NPO法人ワッカナイ街にいき隊PRO 代表
尾崎 篤志さん**

最北から全国へ発信!
マチ再生の仕掛け人

ロシア語の案内板が日常の風景に溶け込む国境の街・稚内市に、平成24年春、新しい駅ビル「キタカラ」が誕生。再開発事業と共に、マチ再生のプロジェクトが動き出しています。



稚内中央商店街振興組合の理事長・尾崎篤志さん(39)は、ベトナム



**最北シネマ株式会社 会長
藤田 幸洋さん**

シネコン誕生に尽力
最北の街に映画の灯を!

平成22年、最北の街に長年の空白を経て、22年ぶりに映画館が復活。「T・ジョイ稚内」は、3D上映システムやデジタルプロジェクターなど最新鋭の技術を備えた3スクリーンを有するマルチシネコンです。映画館復活の原点には、レンタルビデオ店を営んでいた高橋一平さ



稚内市の食育



**稚内牛乳直営店 店長
佐々木 陽一さん**

新ブランド「稚内牛乳」の
おいしさをアピール

実は道内屈指の酪農が盛んな地域である稚内市。広大な牧草地に放牧され、のびのびと草を食む牛たちのミルクは、風味豊かで高品質。しかし、ほとんどが加工品の原料になるため、これまで住民が牛乳そのものを直接味わえる機会はめったにありませんでした。



① 按田 諭さん

[南中ソーラン連 代表]

日本民謡民舞大賞を受賞した、稚内南中学校発祥の郷土芸能「南中ソーラン」。平成22年、これを保存・継承し、全国、そして世界に広めることを目的に発足した「南中ソーラン連」の代表に就任。演舞を通じてさまざまな交流活動を行っている。

① 阿部 勇さん

[稚内海峡太鼓保存会・樺太犬保存会 会長]

稚内市生まれ。平成元年より犬ぞりを始め「樺太犬保存会」を設立。平成12年には、日本人で初めて開宮海峡の犬ぞり横断を成功させた。また、昭和47年に誕生した郷土芸能「稚内海峡太鼓保存会」の4代目会長も務め、地域文化の継承に貢献している。

① 高井 早苗さん

[合唱指導者]

稚内市生まれ。音楽教師の経験を生かし、平成15年、わっかないこどもミュージックサークル「エンジェルボイス」を創立。代表としてスタッフとともに指導にあたる。宗谷管内の小・中学校、サークルの合唱指導、指導者講習会の講師も務める。

① 中澤 和一さん

[稚内市民観光ボランティアガイド 代表]

宮城県出身。漁船の通信長として稚内へ。漁労長を経て、退職後、稚内の歴史や文化、自然環境などの知識を深め、市民観光ボランティアガイドの代表に就任。夏の観光シーズンは、代表的な観光地でガイドを行い、観光文化面でサポートを行っている。

① 門間 奈月さん

[宗谷健康人プロジェクト 代表]

稚内市生まれ。スポーツインストラクターとして、有志と共に「宗谷健康人プロジェクト」を設立。誰でも手軽に実践できるご当地体操や、健康づくりを目的とした街歩きマップの制作を手掛け、地域住民の健康運動の指導に尽力している。

ショップの2代目。経営を引き継いですぐに「商店街の活気のなさがくせんとしました」。そこで「街に元気を取り戻そう」と、同志6名と「ワッカナイ街にいき隊」を結成。当初は売上アップを目指してバーゲンなどを行いました。ところが、どれも失敗。議論を重ね、たどり着いたのが「謝恩」というキーワードでした。

視点を切り替え、ライブ演奏、移動動物園など、若者や家族向けに利益度外視のイベントを実施したところ、好評を得ました。さらには3年目に、念願のNPO法人化を果たしました。現在は、活動の幅もさらに広がっています。

「終着駅ではなく、ここから何かを発信できるマチにしたい」。尾崎さんのビジョンは、商店街だけでなく、未来の街づくり全体を見据えています。

▶ NPO法人ワッカナイ街にいき隊PRO

<http://www.machiniikita.com>



商店街の冊子「yansh(ヤンシュ)」やオリジナルグッズの制作も手掛けた(上)ほか、商店街の空き店舗を利用し、ギャラリーを開設(右)

ん(47)と建設会社社長の藤田幸洋さん(57)の出会いがありました。高橋さんの店の改修工事を通して親交を深める中で、互いに映画好きと分かり意気投合。平成13年には共に、サハリンで日本のアニメの上映会を行う活動に参加します。「字幕も吹き替えもないのに子供たちは大喜び。改めて映画の素晴らしさを知りました」。この感動が2人を突き動かす原動力になったのです。

以後、映画館の復活に向けて本格的に奔走し、経営母体となる最北シネマ株式会社を設立。「人口約4万人の稚内で映画館の経営は正直厳しい。でもね、観客：特に子どもたちの笑顔を見ると苦勞も吹き飛ばんですよ」。その小さな観客の中には、未来の巨匠がいるかもしれません。

▶ T・ジョイ稚内

稚内市中央3丁目6-1

<http://www.t-joy.net/site/wakkanai/>



フルハイビジョンの4倍以上の高解像度を誇るデジタルプロジェクターを導入(上)。ライブ用スピーカーや照明を備えた「シアター2」(右)

「稚内の牛乳のおいしさを知ってほしい」。そんな思いから、平成19年、稚内と沼川の農業協同組合が共同出資し、専用プラントと直売店を開設し、新ブランド「稚内牛乳」を誕生させました。

オープン当初から店長を務めるのは、佐々木陽一さん(35)。神奈川県出身で、北海道に憧れて網走の農業大学を卒業。東京で就職したものの、乳製品製造の仕事に興味を持って再び北海道へ。毎朝、牧場から届く新鮮な生乳を低温殺菌処理し、ノンホモ牛乳を製造、ボトル詰めから販売までを手掛けています。

今や土産として人気上昇中の「稚内牛乳」。「今後はもっと身近な、地牛乳になってくれるとうれしい」と、佐々木さんは、憧れの地で、今日も自慢の牛乳を愛し続けています。

▶ 稚内牛乳直営店

稚内市港1丁目6-8 稚内副港市場内

営業時間 / 10:00~17:00

休業日 / 無休(10~3月は木曜)

<http://www.jawakkanai.jp/milk/milk.html>



直営店に併設するミルクプラント(上)。稚内牛乳(200ml)150円と、佐々木さんがレシピを考案した自家製ソフトクリーム300円(右)

北海道文化財団・韓国演劇協会光州広域市支会交流事業

劇団オル・アリ来日公演

その男の事情

平成19年度にはじまった北海道文化財団と韓国演劇協会光州広域市支会の文化交流活動が、今年度で6年目を迎えました。今回は、「劇団オル・アリ」を招へい。札幌市内の「生活支援型文化施設コンカリーニョ」で、2日間にわたり2回の公演を行いました。



あらすじ

朝帰りした夫の浮気を疑い迫る妻に、夫は「信じられないだろうが、宇宙人に誘拐された」と奇想天外な言い訳をする。そんな夫婦げんかの真ただ中、さらに別の男が「自分の妻を出せ!」と殴り込む。夫は男にも「宇宙人に誘拐された」と告げるが…。過去・現在と、要所で流れる失踪事件の報道映像が徐々にリンクしながら、ストーリーは終焉に向かって急展開していく。夫の言い訳は真実なのか……。そして彼の運命は!?

극단 십년후
날아가다

現代を、シリアスな心理サスペンスと奇想天外な展開で

「劇団オル・アリ」は、平成5年に「若い演劇、観客とともにある演劇」をテーマに旗揚げして以来、創作劇を中心に、精力的な公演活動を展開しています。平成16年には光州広域市指定の専門芸術家団体に選ばれ、平成22年には「コマル全国郷土演劇祭」で、劇団のレパートリー作品「売り物買います」が大賞を受賞。地元でも注目を集めている気鋭の劇団です。

今回の作品は、劇団代表で作家・演出家のヤン・テファン氏による創作劇「その男の事情」。コミュニケーション不在の現代社会の一面を、独創的な切り口で描いた心理サスペンスです。語られる言葉の裏に感じられる、見えない何か…。シンブルな舞台装置と「ねこふんじった」のメロディが流れる中、不穏な雰囲気包まれながらもジェットコースターのように二転三転していくスビード感と役者4人の演技に、観客は、オ



平成24年10月27日[土]・28日[日]
会場/生活支援型文化施設コンカリーニョ(札幌市)

文化交流事業（文化提携交流事業）

北海道文化財団は、韓国の国家プロジェクトとして「アジア文化中心都市」を目指す光州広域市に着目し、交流意向書を締結しました。（平成19年2月）

●これまでの足跡

平成19年度

韓国演劇協会光州広域市支会と交流意向書締結
札幌の劇団TPSが「2007光州平和演劇祭」に参加

平成20年度

光州文化芸術振興委員会と交流協定締結
光州演劇協会所属の劇団青い演劇村が
「札幌劇場祭2008」に参加

平成21年度

釧路の劇団北芸が「2009光州平和演劇祭」に参加し、
光州平和演劇賞受賞

平成22年度

韓国演劇協会光州広域市支会が「札幌劇場祭2010」に参加

平成23年度

光州広域市光州文化財団と交流協定締結
札幌の劇団千年王國が「2011光州平和演劇祭」に参加

平成24年度

光州広域市の劇団オル・アリが札幌で公演



「韓国演劇協会光州広域市支会」会長
チェ・ヨンファ氏

私自身、北海道を訪れたのは、今回で4度目となりました。今や私たちにあって北海道は、異国の地ではなく、海を渡って訪れる。友人の家のような存在です。6年目となる交流を通じて、北海道の演劇文化の状況やビジョンを深く知り、言語によるコミュニケーションを超える心の通い合いから、さまざまな刺激を受けました。

今後はさらに、一つのテーマを掲げ、北海道と光州でお互いに舞台を創り上げたり、ワークショップを開催したりと、それぞれに培ってきた演劇の知識や技術を融合し、より発展的な交流ができるとうれしいです。

互いに高め合える発展的な交流を目指して



コミュニケーション不在の

ルアリの世界に引き込まれ、終演時には盛大な拍手が贈られました。

彼らの拠点光州広域市は、20年の年月をかけた韓国の長期文化プロジェクト「アジア文化中心都市造成事業」の指定都市。整備中の複合文化施設「国立アジア文化殿堂」の誕生を目前に控えています。

北海道文化財団は、これまで温めてきた文化交流の絆をもとに、光州文化財団と「交流協力に関する協定書」を締結。演劇の枠を超えた文化全体の交流を、今後もさらに深めていきます。



北海道舞台塾事業のお知らせ

シアターラボ札幌 参加劇団決定

北海道舞台塾「シアターラボ札幌」では、参加劇団を募集していましたが、次の2劇団に決定し、各々のドラマドクターのもとで2年にわたり指導していただきます。

◆intro 代表/伊藤 若葉
[ドラマドクター/柴 幸男氏(ままごと主宰)]

◆劇団アトリエ 代表/小佐部 明広
[ドラマドクター/泊 篤志氏(飛ぶ劇場代表)]

なお、次のとおり1年目の公演を予定しています。

公演日 平成25年3月16日(土)、17日(日)

会場 札幌市教育文化会館 小ホール

北の元気舞台 地域間交流公演

銀の会
「ペンション(夢)最後の夜」

公演日時 平成24年11月30日(金) 18:30開演
会場 釧路市民文化会館 小ホール

釧路子どもミュージカル キッズロケット
「百年の仲間たち」

公演日 平成25年1月15日(火)
会場 北海道立道民活動センター かでるホール

対談

佐々木 譲(小説家) × 橋口 幸絵(劇作家・演出家)

日時 平成24年12月2日(日) 14:00開演
場所 北海道立文学館

平成25年度
共催・助成・自主事業
事業計画を募集中

- (1) 共催事業 まちの文化創造事業
(シアタープログラム・ギャラリープログラム)
アートシアター鑑賞事業
(道内・道外アーティストプログラム)
- (2) 助成事業 文化交流事業
(発信交流・招へい交流)
- (3) 自主事業 アドバイザー派遣事業
舞台創造支援事業
文化の宅配便事業
アート体感教室事業

募集方法

- 市町村などへ募集パンフレットを配布しています。
(当財団のホームページにも掲載)
- 当財団ホームページから、事業計画書などをダウンロードできます。
(<http://www.haf.jp>)
※パンフレットや事業計画書などをご希望の場合は、当財団へお問合せください。送付させていただきます。

提出方法

直接、当財団に送付または持参の上、提出してください。

締 切

平成24年12月21日(金) 必着

留意事項

北海道文化財団の共催負担金・助成金と、北海道・北海道教育委員会からの補助金等との重複した交付を受けることはできません。

文化の宅配便開催事業

ユニット・リトルバレエ
「誰でもわかる楽しいクラシック・バレエ」公演



「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」の中から代表的な踊りの上演や、バレエの練習風景、歴史等についての解説を行います。公演前には衣装試着体験や衣装展示も行います。

仁木町

日 時 平成25年1月27日(日) 14:30～
会 場 仁木町民センター

若手芸術家発表事業

当財団が推薦する若手演奏家(HAFアーティスト)が、道内各地域でコンサートやアウトリーチ活動を行います。

トリオアンジュエ

小林 佳奈(ヴァイオリン) 長谷川 加奈(ヴァイオリン)
谷敷 さなえ(ピアノ)

月形町

コンサート 12月4日(火) 18:30開演
月形町多目的研修センター
アウトリーチ 12月4日(火) 月形町立月形小学校
(中・高学年対象)
お問合せ先 月形町教育委員会社会教育係
Tel.0126-53-2376

- ご宿泊
- ご宴会
- ご婚礼
- ご会合

RESTAURANT
スピカ
四川飯店
DINING RESTAURANT
和フレンチレストラン
「味の会」



ご用意しているのは、心地よい時間
庭園という名のホテルでお逢いしましょう。



Gp ホテル札幌カーテンパレス
TEL(011)261-5311 FAX(011)251-2938
〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目(道庁南側)
URL <http://www.hotelgp-sapporo.com/>



RITSUMEIKAN

立命館慶祥中学校
立命館慶祥高等学校

2011～2012年度合格実績

- 東大・京大に強い! 現役が強い!
- 東大・京大10名合格! うち現役合格8名!
- 医学部医学科に強い! 国公立に強い!
- 医学部医学科31名合格!
- うち国公立合格24名!

〒069-0832 江別市西野 640-1
Tel.011-381-8888 Fax.011-381-8892
<http://www.spc.ritsumei.ac.jp/>

■ 中学入試情報

試験日 1月9日(水)
試験内容 一般:国語、算数、社会、理科、面接(本人のみ)
セミナー、個性、帰国入試:国語、算数、面接(保護者同伴)
※SPコースで出願している場合は、4科目の筆記試験(国語、算数、社会、理科)
出願期間 2012年12月5日(水)～2012年12月21日(金) 必着

■ 高校入試情報

1月入試 一般推薦・特別推薦・単願・専願・1月帰国・全国入試
試験日 1月19日(土)
2月入試 一般入試
試験日 2月14日(木)
道内7会場 本校・北見・網走・帯広・釧路・函館・旭川

● 今年度の高校入試より、入学検定料が変わりました! 20,000円→15,000円